

会議録

1 会議名

令和7年度第6回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

(1) 牧湯の里深山荘の条例改正の事前説明について

(2) 令和7年度地区懇談会の開催結果について

○自主的な審議（公開）

(1) あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

3 開催日時

令和7年9月16日（火）午後6時30分から午後8時9分まで

4 開催場所

牧区総合事務所 3階 301会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名

・委員：西山会長、清水副会長、飯田委員、池田委員、井上委員、梨本委員、西條委員、羽深委員、宮内委員、和久井委員

・事務局：牧区総合事務所 小林所長、岩崎次長、清水市民生活・福祉グループ長 兼教育・文化グループ長（以下G長）、小暮地域振興班長、霜越地域振興班主事

・担当課：観光振興課 青柳副課長

板倉区総合事務所産業グループ 佐藤G長、山㟢産業観光班主任

8 発言の内容（要旨）

【岩崎次長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告

【西山会長】

- ・挨拶

【小林所長】

- ・挨拶

【西山会長】

- ・会議録署名委員として梨本委員を指名

報告事項(1) 牧湯の里深山荘の条例改正の事前説明について、担当課から説明をお願いする。

【佐藤G長】

- ・資料No.1に基づき、牧湯の里深山荘の条例改正の事前説明について説明

【西山会長】

今ほどの説明について、質問等があればお願いする。

【和久井委員】

今回の改正は、運営の実態に合わせるものという認識でよいか。

【佐藤G長】

そのとおりである。条例改正案の検討に当たっては、去年の11月頃から深山荘の指定管理者である株式会社太平堂と打合せを重ね、現在の実態に合わせる形での改正にしてほしい、という意見をいただいている。

【井上委員】

改正理由は3つ挙げられているが、今の説明を聞く限りでは2番目と3番目に該当する部分の説明がなかったが、来月の諮問内容にその点も含まれるのか。

【青柳副課長】

今回の条例改正理由は、人材の確保が困難であるためで、これは施設運営における潜在的な課題として認識していた。その対応として、現行の営業時間や休館日を改めたいということであるので、理由の3番目については、今ほど説明したものに含まれているということでご承知いただきたい。2番目の「物価が大幅に上昇」については、施設を利用する方の負担を整理することが必要だと認識している。深山荘をはじめとする、指定管理者制度を導入している施設では、条例で利用料金の上限額を規定し、その範囲で指定管理者が実際の料金を設定することになっているが、物価高騰の状況を受け、その上限額を変更する必要があるため、市役所の担当課である資産活用課が検討を行っている。これについても条例の改正が必要になるが、諮問事項ではなく報告事項として、次回改

めて説明をさせていただく予定としている。条例で規定する金額はあくまでも上限額であるが、基本的には現状より利用料金が上がるということで、ご承知いただきたいと思う。

【西山会長】

他に質問等はあるか。

他に質問等がないようなので、これで報告事項(1)を終了する。

(観光振興課、板倉区総合事務所産業G退席)

続いて、報告事項(2) 令和7年度地区懇談会の開催結果について、事務局から説明をお願いする。

【小暮班長】

・資料No.2に基づき、令和7年度地区懇談会の開催結果について説明

【西山会長】

今ほどの説明について、質問等があればお願いする。

【飯田委員】

今年の地区懇談会には、総合事務所の職員は各会場で何名出席したのか。

【小暮班長】

8月5日と8月6日については各会場3名ずつ、最終日の8月7日は、4名で対応させていただいた。

【西山会長】

他に質問等はあるか。

(質問等なし)

他に質問等がないようなので、以上で報告事項を全て終了する。

続いて、自主的審議事項 あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」についての審議に移る。

今回は、前回に引き継いでの審議となり、まず事務局の説明を受けた後、3つのテーマごとにワンフレーズや取組の内容、関係しそうな人・団体について、皆さんから意見を出していくいただき、事務局でそれをとりまとめ、次回の会議までに整理していただくこととする。まず、事務局から説明をお願いする。

【小暮班長】

資料の説明に入る前に、この自主的審議が目指すところと本日皆さんに審議していたことを説明させていただく。

「体験・移住」「農業・林業」「外出支援」のいわゆる三本柱のテーマと目標は、前期の地域協議会委員が、議論を重ねた末にまとめたものである。前回の第4回牧区地域協議会においては、これらのテーマと目標は維持した上で、具体的な取組を検討することを審議していくことにしたと認識している。従って、前回の議論を受けて、現在は取組の具体化や工程化に向けての議論を行っている段階であることをまずご理解いただきたい。

資料No.3の1ページ目の中ほどに牧区地域協議会の役割と表した部分があるが、これは本審議案件に限らず、当市の地域協議会に期待されている役割として規定されているものだが、地域の課題を意見交換などから把握した上で、その課題を解決するため必要な取組を見出し、さらにそれを担っていただけるような人や団体、これには市も含まれるが、それらに対して働きかけを行う、そこまでが地域協議会に期待されている役割として位置付けられている。

つまり、本日地域協議会委員にお願いしたいのは、前期の委員が議論の末に見出した3つのテーマについて、その解決に向けた取組と、その取組に関係しそうな人、団体などを検討していくということを論点として、積極的にご意見を出していただきたいということである。

事務局としては、そういった地域協議会委員の積極的な議論を受け、見出された必要な取組を担う人や団体に対し、地域協議会の意向を受けて働きかけを行い、その結果や取組の進捗状況などを適宜報告させていただくことが、今後の動きになってくると考えている。

働きかけた結果、「これは上手くいきそうだ」とか、「いや、この取組を担う人はちょっと違ったのではないか」、「実際にやってみたら色々な課題が出てきた」、「そもそもこの取組は無理があったから別の方法が良いのでは」、というように、その時の状況に応じて取組の内容や担っていただけそうな人を適宜見直していくことも含めて、議論をしていただことになると考えており、その結果、まさにこのテーマである「あらゆる人が安全・安心に住み続けたい『牧づくり』」につながっていくということを、この自主的審議のねらいとしていただきたい。

これを踏まえ、改めて自主的な審議の内容について説明させていただく。

前回に引き続き、3つのテーマごとに取組の方向性、いわゆるワンフレーズやこれまでの意見交換会や審議などから見出された必要な取組、それらに関係しそうな団体等についての意見を出していただきたいと考えている。

資料自体は前回から大きな変更は行っていないが、追記・修正したところは赤字で示

している。ワンフレーズは前回提示した素案に加え、あらかじめ井上委員からいただいた修正案を併記しているが、どちらが良いかを選ぶというより、どのようなものがふさわしいかを議論いただければと考えている。

続いて、各テーマの必要な取組とそれらに関係しそうな人・団体についてであるが、前回、人・団体については事務局案として説明した内容を追記したほか、取組についても、ご意見があったものを若干追記した。なお、各テーマの取組の一番下に空欄を設けていが、さらにこのような取組があっても良いのではないかという意見があれば、それを追加するための余白として用意したものである。

【西山会長】

続いて、ワンフレーズの修正案を出した井上委員から、その趣旨を説明していただきたい。

【井上委員】

まず「体験・移住」だが、事務局の素案では、「牧区の姿に共感し、共に地域に暮らす仲間を増やす」とある。そのとおりだと思う一方で、私がよくわからなかつたのは、牧区の姿というところである。そこに生きている人の姿だとか、ある団体、集団の姿だとか、そのようなこととして受け止められるが、それに共感するというのはよくわからなかつた。まず、共感するというのは、考え方や主張に同感する、自分も同じだという意味になるが、ここで挙げられた取組の例などを見れば、いろいろな人の考え方や思い、願いを具体化していくという方向が良いのではないかと思った。いろいろな人の気持ちを大切にするということが、仲間を受け入れる態勢の整備とか体験コンテンツの強化に結びついていくのかなと思ったので、このように出させていただいた。

農業・林業については、「牧区の暮らしに根差した農業・林業を次世代につなぐ」とあるが、私はつなぐというより、その前に活性化することが大事ではないかと思う。ただ、その「暮らしに根差した」という部分の捉え方はいろいろあり、杉が大事だという人もいれば、別のものが良いという人もいると思う。今私たちが生きている自然や社会をどのように捉えるかによって、農業や林業を活性化した上で、次世代につなぐという方が良いのかと思い、牧区において、より良い産業としての農業・林業を目指していくという言葉にした。

外出支援については、単に言葉の問題である。「チカラを紡ぐ」というのは、中々理解しにくい。「紡ぐ」というのは、綿や繭を引き出し、よりをかけて糸にするという意味だが、そうすると、チカラは形ではないので、ここでは「結集する」などが言葉としては落

ち着くのではないか。紡ぐという言葉は使わずに、誰もがわかるように、支え合うという言葉にしてはどうかと思った。

ただ、これらは具体的な内容 자체を変えるということではなくて、特に外出支援については、言葉として落ち着かせるという考えである。

【西山会長】

それでは、それぞれのテーマについて、意見交換を行う。事務局の説明と井上委員の趣旨説明を踏まえて、ワンフレーズ、取組の内容やこれらに関係しそうな人、団体について意見を出していただきたい。

【清水副会長】

井上委員の説明を聞いて、牧区の姿というものがどういうものなのかは確かにわかりにくいとは思った。「自然環境や風土に共感して」という方がマッチするかなと思った。農業・林業や外出支援についても同様に、井上委員が説明した内容の方がより具体的にわかるのではないかと思った。

【池田委員】

牧区とは、山とはこういうところだ、というのをまず具体的な言葉にして、これに共感していただいた方が、共に牧区で暮らす仲間ということなのだと思う。

【西山会長】

何度か話したことがあるが、長野県の信濃町では移住者が増えている。移住者が移住者を呼んでくる流れがあるようで、なぜそのようになるのかを勉強していくことがあっても良いと思った。

【飯田委員】

前期から委員を務め、この3つのテーマを決めた立場として大きな責任を感じているが、いざこのように言葉に表してみると、非常に難しく感じられてしまう。前回、まずは一步踏み出す時に来たと発言したが、言葉のことよりも、しっかりと前に進めていくことが大事だと思う。

【小林所長】

議論を整理させていただきたい。まずワンフレーズについて議論し、その後に各取組について議論していただくつもりでしたが、ワンフレーズに囚われてしまうのは望ましくないので、例えば、ワンフレーズを無くすという案や、ひとまずワンフレーズについては置き、取組についての議論を進めてから、後でワンフレーズの議論を行うという案も考えられる。そのため、ワンフレーズの議論に力を注ぐよりは、実際に動いていくべきこ

との議論に力を注いでいってはどうかと考えるが、いかがか。

(一同了承)

それでは、これまでの意見交換に参加して感じたことなどがあれば、こんな取組をやってみたらどうかという意見を皆さんからいただきたい。

【梨本委員】

まず牧区にどのような団体があるのかを調べることが大事だと思う。

例えば、区内のある企業が、秋に子どもたち向けのイベントを行う予定である。500人くらいの子どもたちが集まって、重機の体験などをを行うほか、地元の農産品などを販売する店も出ることになっている。このように、外から人が集まる機会を作る団体がいることを知ってほしいと思う。

また、昨年牧区の若者が集まって組織されたという団体があるが、どんな組織なのかよくわからない。もっと柔らかい感じにわかりやすく表現していけば良いのではないか。

「農業・林業」の方で前回も話したが、私は牧区の暮らしに根差した林業というものはないと思っている。現場を見ないで話しても無意味であり、どういう取組を行っている人がいるのかも見てもらいたい。私は牧区の品物を使って新たな商品の開発を行っている。牧区にどんな有効なものや資源があるか、そういったことを勉強していくのが必要だと思う。それをした上で、次世代につなげていかなければならぬと思う。

【井上委員】

私は、ワンフレーズそのものにこだわっているわけではないので、まずはここに書いてあることを進めていけば良いのではと思う。ただ、受入れ態勢の整備に関する団体に「上越市」と書いてあるが、それは総合事務所ということで良いか。

【小林所長】

そのとおりである。空き家の情報整理や、移住者を受け入れたい町内会の情報収集などを、総合事務所で整理していきたいと考えている。

【飯田委員】

賛成である。

【羽深委員】

「牧区に移住した人との意見交換」は、実際に住んでみると大変なこともあると思うので、生の声を聞く機会があれば良いと思う。

【池田委員】

確認させていただきたい。「仲間を受け入れる態勢の整備」に関係しそうな団体は上越

市とあるが、その中の「牧区に移住した人との意見交換」は、私は総合事務所だけで行うという認識ではないが、どのようにしていくのか。

【小林所長】

個人情報の関係もあるので、どのように進めていくかは検討が必要だが、まずは総合事務所が中心になって進めたいと考えている。

【清水G長】

実際に行う場合は、地域協議会委員も入る方が良いということか。

【池田委員】

地域協議会が入らなければならないというわけではないが、そういう方々の意見を聞きたいと思うし、その意見によって、コンテンツ強化のアイディアにもつながってくるのではないかとは思う。総合事務所だけに任せるのは少し違うのではないかと思った。

【小林所長】

まずはどのくらいの移住者の方が集まってくれるのか、総合事務所で働きかけを行わせていただきたい。その上で、実際に意見交換を実施する前に、地域協議会委員の皆さんに声をかけさせていただくということはどうか。

(一同了承)

【西山会長】

そのように進めていただきたい。続けて、体験コンテンツの強化に入る。

【小林所長】

今ほど区内の企業という声もあったが、また例えば地元事業者さんが協力してくださるのであれば、関わっていただく方向で声をかけていくことでいかがかと考える。

【飯田委員】

牧区内の体験というと、区内全体を見渡せば、大根まつりを行っていたり、灯の回廊をやっていたり、年間通して地区ごとにイベントがあるわけだが、そういうことまで掘り下げ、手を広げていくことには少し引っ掛かる気持ちがある。

【小林所長】

広げれば際限がないが、まず声かけは広く行い、やっても良いという人がいればお願ひしていくことになる。まだ声かけはしていないので、例えば農業であれば、農業の団体に声をかけていくということになると考える。

【井上委員】

ここに示された内容をみんなで協力して取り組んでいくというのが、まずは良いのか

なと思う。あれもこれもとやっていくのは大変なので、まずは取り組んでみて、これ以外に取り組むものがあるとすれば、例えば私たちが研修会や勉強会をやるなどをして、これらを充実させていくことを考えていくこととして良いのではないか。

【小林所長】

事務局としては、今、井上委員が発言されたように、手を広げることによって対応がどうかということもあるので、働きかけた結果を受けて、研修会や勉強会の機会で広げていくというやり方もあるかと感じた。

ここでまず整理をさせていただきたい。まず、体験・移住のワンフレーズについては、今、A案B案と書いてあるが、これはこのまま残し、状況を見て改めて整理していくということでおよいか。また、具材的な取組について記載のとおり進めていくこととし、1つ目の「仲間を受け入れる態勢の整備」のうち、区内で活用が可能な空き家の情報整理と移住者を受け入れたい町内会の情報収集・発信については、まず総合事務所で動いていきたいと考えている。ただ、「牧区に移住した人との意見交換」については、まず総合事務所の方で移住者の情報を把握し、意見交換会に参加していただけるかどうかを探った上で、委員の皆さんにお諮りすることとしたい。2つ目の「牧区体験コンテンツの強化」については、様々な意見をいただいたが、手を広げると対応しきれないということなので、まずここに上がっている団体と意見交換をし、体験のコンテンツを作り上げていければと考える。これらを働きかけ、動けるものは動いてみて、その結果に基づいて委員の皆さんと反省点や意見交換ができれば良いと考えている。

【西山会長】

今の整理についてはどうか。

【池田委員】

それで良いと思う。

【西條委員】

所長が整理をされた内容で良いと思う。

【宮内委員】

イベントはどこまで広げるかという話があったが、灯の回廊で準備に当たる人も減っているので、体験・移住という形で参加する人を増やすことにつながれば良いと思う。

【和久井委員】

牧区の暮らしに触れる体験機会の創出ということで、実際に牧区に关心を持ってくれた方が、どのようなことに関心を寄せてくれたのか今はわからないので、そのような意

見を聞いていきたい。

【西山会長】

時刻も遅くなっているので、今回はここまでとし、次回は農業・林業と外出支援について、話し合っていくこととしたい。

【岩崎次長】

それぞれのテーマでお示しした取組については、最初に担当が説明したとおり、これに限らず、これも必要ではないかということがあれば、適宜追加できるものであるということをご認識いただいた上で、引き続きご意見をいただきたい。

【西山会長】

以上で自主的な審議を終了する。事務局からその他連絡事項について説明をお願いする。

【霜越主事】

- ・次回の地域協議会の開催日：10月23日（木）
- ・金谷区地域協議会の意見書に対する回答書を配布

【西山会長】

本日の会議は以上で終了とする。清水副会長に閉会の挨拶をお願いする。

【清水副会長】

- ・挨拶後、会議の閉会を宣言

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-533-5141 (内線 145・147)
E-mail : maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。